

## 編集後記

ぼちぼちではあるが、メダカが川に戻ってきているという。たったこれほどのことだがまことに喜ばしい。昭和四〇年代からの経済優先の原理と行動のゆえに、全国の山河が病み田園が荒廃した。それが生物環境を変えそして何よりも人の心を痛めたが、そうした歴史はこれまでにはなく、今後あってはならない。

世間では、衰退のきわにあったマツリがだんだんと復活している。新興のマツリも勢いがいい。里山を見直す声や棚田を保存する動きも広範に展開しはじめた。それらを、マチやムラビトの心の復興、ふるさとの再認識の一端とみたい。

地域の歩みを探る私たちの仕事(趣味も含めて)は、ふるさとをおもいやり、先人にふれることが本旨であろう。発見されたふるさとの遺産、大友館跡は中世府内からのメッセージ。コンクリート病におかされないよう大切に守っていききたいものである。

第一七四号をお届けいたします。